

第4回米沢市総合計画審議会 会議録

1 日 時 平成26年10月27日（月）13:30～15:00

2 場 所 アクティー米沢大会議室

3 出席委員

尾形健明会長、泉多恵子委員、遠藤秀平委員、大和田浩子委員、奥村あい子委員、小野浩幸委員、佐藤大喜委員、柴田正孝委員、島津眞一委員、白井裕久委員、白石祥和委員、鈴木清治委員、林宗太郎委員、我妻仁委員 以上14名

（安部美和子委員、小野寺忠司委員、佐藤晃代委員、清野雅好委員、中嶋朱実委員は欠席）

事務局

副市長、総務部長、企画調整部長、市民環境部長、健康福祉部長、産業部長、会計管理者、水道部長、市病事務局長、教育管理部長、教育指導部長、議会事務局長

（建設部長は欠席）

総合政策課 課長、課長補佐、総合計画策定室長、担当

4 会議録

（1）開会

（2）会長あいさつ

会 長 本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。今回第4回ですけれども、5回目が12月にあると思います。年が明けて、中間報告を作っていかなければいけない時期に入りますので、どうぞ気合を入れてよろしく願いしたいと思います。

（3）議事

事務局 審議会条例第5条第2項の規定により、会長が議長となることとされております。尾形会長に議長をお願いしたいと存じますのでよろしくお願いいたします。

会 長 それでは、議事に入ります。本日の会議につきましては、午後3時半くらいまでには終了したいと考えておりますので、議事の運営につきまして委員の皆様の御協力をお願いいたします。はじめに（1）の新総合計画（まちづくり）の視点について、事務局から説明願います。なお、審議の前半は全員からの意見の聴取は行いません。後半の安心安全の部分は全員から意見をお聞きしますので、よろしくお願いいたします。

事務局 資料1「新総合計画討議資料」に基づき説明

- 前回の審議会までに出された御意見の中に前回資料の4頁、審議項目2に該当する御意見が少なからずありましたことから、今回参考資料として審議項目2についてこれまでの御意見を入れ込んだ形で要点を絞り込んで作成しました。
- 資料の構成としましては、最上段にこれまでの審議会の共通認識となっている「定住人口の確保に向けた米沢市のまちづくり」を掲げたところであり、次の段の「施策の方針」は前回資料の審議項目2①の「施策の方針」に該当する部分であり、これまで事務局案としてお示ししておりました文言を簡潔な表現に改めて記載しているところです。

- ただし、前回までの事務局案には「安心安全の視点」が抜けていましたことから、この視点を追加したところであります。御審議をいただく中で別の視点等の御意見が出た場合は事務局で調整をさせていただきたいと考えております。
- 「今後10年間で取り組む主要施策・方向性」は、前回資料の審議項目2②の主要施策に該当する部分であり、これまでの御意見から関連するものを事務局で要約して記載させていただいたところ です。
- 「50年後を見据えて目指すもの」については、それぞれの分野において今後10年間で取り組む主要施策・方向性に基づく施策を実施して、最終的にどのような結果や効果を目指すのかについて、これまでの御意見から関連するものを事務局で要約して記載させていただいたところ です。
- 下段の「50年後の米沢市」としまして、前回資料の審議項目1の「50年後に残すもの、50年後の姿」の御意見をまとめたものです。
- 審議の進め方としましては、資料の黒字の網掛け部分を中心に御審議をいただきたいと思 います。
- 「産業振興」、「人材育成」、「都市整備」については前回までの御審議において、一定の御意見を頂戴しておりますことから、主に「50年後を見据えて目指すもの」の部分を中心に過不足等があるかどうかについて分野ごとに御意見を頂戴したいと思 います。その後、「安心安全」の視点についての御意見についてお伺いできればと考えています。
- 「安心安全」の視点については、今回事務局で追加したこと から、「今後10年間で取り組む主要施策・方向性」と「50年後を見据えて目指すもの」の両方の部分について御意見を頂戴したいと思 います。よろしくお願 いたします。

会 長

ありがとうございました。ただいま説明がありましたように、本日一番時間を取るところは「安全安心」の視点です。「今後10年間で取り組む主要施策・方向性」と「50年後を見据えて目指すもの」についてお話しいただければと思 います。こちらは御意見がある委員だけの発言になりますけれども、最初に「産業振興」というところで、「50年後を見据えて目指すもの」が良いのかどうかというのを議論したいと思 います。その議論が終わりますと、「人材育成」で同じように御発言いただきます。最後に「都市基盤」というところで、「50年後を見据えて目指すもの」が2項目しかないものですから、あと2つくらい何かありませんかということで皆さんから発言をいただきたいと考えております。よろしくお願 いたします。それでは「産業振興」の「50年後を見据えて目指すもの」で過不足がないかどうかどなたか御発言ありませんか。

委 員

産業振興の50年後について、前回のまちづくり総合計画に「協働」という、行政にだけ依存したり、要求したりするのではなくて、市民一人一人が協働していくというコンセプトが入っていたと思 いますが、「外から来たものに負けない地元商店街、地元のレジャー」という項目を考えた時に、昨今の消費支出のほとんどが大型店に吸収されています。中小店舗が次々となくなっていくわけですが、そういう店舗が商店街連盟や商工会議所に入っているかというところほとんど入っていません。例えば、市を挙げてのお祭りなので寄付をお願いしますという、ほ

とんどお出しできないシステムになっているようです。これが協働と言えるのかなと思います。これを条例で、「この地で商売をするのであれば、業界に所属して地域社会活動を行っていくこと」というように定めているところがあるそうです。東京都世田谷区が有名です。今後10年間で整備するのは難しいかもしれませんが、少し強制力を持った行政誘導的な施策が付随する表現が必要ではないかなと思います。

委員 「有機エレクトロニクスの認証は米沢」とありますが、50年後、有機エレクトロニクスは本当に認証まで行く時代なのかなと思います。当然のことながら今後10年間で取り組んだ後には、産業化・民生化が進んで、次のステップに行くとなると、50年後を見据えて「有機エレクトロニクスの認証は米沢」というのは50年後を見据えたものとしては、近すぎるのかなという気がします。他には、「外から来たものに負けない地元商店街、地元のレジャー」についてですが、意味はわかりますけれども、50年後を目指した時に施策を講じても間違いなく人口が減少していく中で、地元の商店街も厳しくなる。それを踏まえると、全体的な定住人口の確保に向けた中で、産業振興を図るには、負けない商店街というのは、どういうものを作りたいのだということをもう少し具体化していただければいいのではないかなと思います。例えば、米沢の伝統や地元の名産品のブランド力を高めて世界に通じるようなブランドを創っていくような視点が必要かなと思います。もう一つ、「国際競争力のある農業」は50年後確かに必要なことだとは思いますが、その前に10年から50年の間に必要なのは、農業をいかに継承していく、世代交代がうまく進み、かつ新しい人が参入して、地域の農業を守っていくために、基本的に地元で作ったものを地元で消費し、自給率100%を目指すあるいは維持していく農業を目指すのだという項目が必要かなと思います。

委員 私は「国際競争力のある農業」だけでいいのかなという気がします。産業振興とありますので、工業や商業あるいは情報産業といったものも並べておいた方がいいのかなと思いました。あと、「企業誘致に依存しない」という表現は必要なのだろうかと思います。

会長 確かに、言葉使いはもう一工夫必要かなという印象を受けますね。

委員 (参考資料配布) これは米沢市と山形大学工学部で行っている勉強会の資料です。中身はサイエンスパーク構想と言うことで、全国の先進地を見ながら勉強しているという紹介ですけれども、もちろん、有機エレクトロニクスやベンチャーの創出という項目で、すでに原案の中にサイエンスパークが入っていないわけではないのですが、今その勉強会の中で、先進事例として石川のISPや神奈川のKSPを見て盛んに議論しているのは、新しい産業を継続的に生み出していく仕組みづくり、つまり、金融やサービスを含む幅広い産業を生み出していく仕組みづくりが重要だという議論がなされています。サイエンスパークと言ってしまうと、工業団地の延長と考えられがちですが、実は地方からすると、ハイテク産業を集積させるというよりは雇用を創出する、内発するということが非常に大きな命題になることからすると、実は海外事例を見てもそうですが、小さな新しい産業や金融やサービスが生まれていく仕組みづくりというものが重要でないのかな

と思います。そういう視点も捉えていったらいいのかなと思います。

会 長
委 員

いわゆる大学をもっと活用してということですね。
大学をもっと活用して学生ベンチャーなどするというのも重要ですが、先ほどから皆さんのお話をお聞きすると、ハイテク産業ばかりが注目され、米沢の伝統産業や長寿企業が抜けているのではないかと感じました。日本のような長寿企業が残っている例はあまりなく、実は日本でも山形県は京都府に次いで長寿企業が多く、特に米沢は数が多いのです。しかも今もって競争力を持っている産業ということに是非注目していただければと思います。

会 長
委 員

確かに米沢には多いですね。この視点も入れてくださいということでした。次に人材育成に移ります。過不足等御発言ありますか。

委 員

農家の視点から補足したいと思いますが、「郷土愛の育成」に入ってくるのだと思いますけれども、「食の教育」をこれから重要視していただきたいと思います。米沢は独特な食文化がありますので、地元において地元のことが分からないということがないように、是非「食の教育」を付け加えていただきたいと思います。

委 員

「無駄な教育費をかけないで」という表現は、前回の審議の結果出たのだと思うのですが、必要かどうか吟味したほうが良いと思います。もう一点は、「確かな学力」というのは知識量だけではなく考える力等を合わせて考えるべきなのか吟味する必要があると思います。米沢は教育に力を入れる、お金をかけて力を入れてきた経緯がありますので、是非大項目には入れていただきたいし、大事にしていきたいなと思います。

会 長
委 員

ありがとうございます。全般的に言葉の使い方に精査が必要です。

これは前回私が発言したものです。私が言いたかったのは、教育費に無駄なものはないわけですが、所得格差によって高いレベルの進路の選択が狭められるような社会があるということです。このことを解決するために、地域の中で子どもたちにかかる教育費を予算の面でより手厚くして、塾に行かなくてもしっかりと教育を受けて、是非その中から高い国際的な力を身に着けた、世界に通用する人材を育てるのだという取り組みを行い、その中で郷土愛を育成しながら、22歳または40～50歳のライフステージの時にまた戻ってきて、あるいは外に出たとしても、愛郷心を持って、米沢を思いサポートする、そういう力強い人材を作っていくのだというのを是非テーマとしては入れていただきたいと思います。

委 員

施策の方針の文言ですが、非常にわかりやすくまとめておりますけれども、これで全体の目標になるのかなと思いました。どこの都市にもあるような文言ではなく、一目見て米沢だと思わせるような文言を方針に入れられないものかなという思いがあります。なぜならば、これからの計画を実践していくのは行政だけではなく市民の方々も大いに心を入れて取り組まなければならないわけですので、市民が見てわかるような文言に出来ないものかなと思ったところでした。先ほど申し上げた視点から言うと、「地域文化の継承」という部分を「上杉文化の継承」とでもすると、米沢ならではのものではないでしょうか。

委 員

グローバルな人材になるためには、日本という国がどういう国かしっかり分かっているなければならないと思います。日本のイメージを大きく傷つけるような新

聞社の誤報問題もありましたが、そういうところから脱却ではないですが、米沢の教育はいい意味での愛郷心を育てる取り組みをしますという文言が入っているのもいいのではないのかなと思います。

委員 学園都市という言葉に、全ての分野に住民が参加するということが入っているのかもしれませんが、この文言と議論を聞いていると、教育の対象が若年者だけを意識している印象を受けました。米沢は地域性を考えるとすべての世代が学びあう地域を目指していくべきだと考えています。(参考資料配布) 5年前に街中サテライトキャンパスを開かせていただいて、主として産業人材を育成するというテーマで取り組み、現在は山形大学工学部の街中サテライトキャンパス自体は継続しております。一昨年に事業が終わってしまったので今後どうすべきかと考えなければならぬ時期であります。見ていただきたいのはサテライトキャンパスの利用者数の推移ですけれども、最初は産業人材を対象とした企業人育成でしたので人数も多くはないのですが、一昨年あたりから、非常に少しずつですが市民に広く利用してもらっています。ここで申し上げたいのは、今は工学部のサテライトキャンパスですけれども、そうではなく全ての世代の人を対象として集う、楽しむ、学ぶ場があってもいいのではないかと思います。これは非常に見識が深く知識力も高いという米沢の市民性であるので、市民が学ぶ場づくりは考えていただいてもいいのかなと感じております。

会長 随分参加者が増えてきていますね。大学にもものづくり専攻を作ったのがきっかけですね。栄養大学も含めて大学を中心として回るようなまちづくりができたらいいなと思っています。やはり文言の話になってきますと、一般解はある程度必要なのかなと思いますし、その上に特殊解が乗ってくるということで米沢らしさを出していければと思います。一般解を否定してはダメだと思いますし、その中で米沢らしさを出していければと思います。上杉鷹山の肖像画はどの小学校にもありますし、その辺の特殊性も含めていければなと思います。では続いて「都市整備」に移りたいと思います。

委員 都市整備について、10年間で取り組む項目に「コミュニティの維持」と書いてありますが、今後中学校の学区が再編され、付随して小学校の学区が変わっていく中で、地域のコミュニティも再構築が大きな視点としてあると思います。現在、各コミュニティセンターにおいては地域おこしを頑張っていますが、学区再編がされればされるほど、今までのコミュニティセンターが統合されていくと思います。コミュニティの統合を慎重かつ丁寧に構築していかなければならないと考えると、「コミュニティの維持」の文言に、「小・中学校の学区編成に伴ったコミュニティの再構築」と載せていただくことが大事だと思います。

委員 「城下町らしい町並み」なんかは「上杉の城下町らしい町並み」とした方がいいと思います。それから、「高校が分散していないまち」とありますが、この項目は必要なのかなと思います。

会長 他に付け加えることはありませんか。

委員 「安心安全」の項目にあります、「雪をコントロールするまち」というのは都市整備に入ってもいいのではないのかなと思います。ただし、雪をコントロールす

るというのはいかにも雪が厄介なものだという心情の表現ですので、むしろ「雪を楽しむまち」とか「雪と親しむまち」というようなプラス思考の表現がいいのではないのでしょうか。雪は避けて通れないですので、プラス思考で考え、都市整備に持ってきてもいいと思います。

委員 都市整備の面では、当然今のインフラが今後50年続くわけではないので、建て替えや再生の時期が来ると想定すれば、いかに地域を超えた形で連携して公共設備の整備をしていくかという視点は入れていただきたいと思います。

会長 確かに50年経てば橋も古くなるし、現在建設中の高速道路も老朽化しますね。いろんな問題が出てきますね。

委員 「安心安全」と「都市整備」はかなり密接に関連しているので、二つの話をどういう位置づけで議論していくのかが悩ましいです。雪や防災の話が出ましたが、同様に、より子育てしやすいまちとは何か、また健康で健やかに長寿社会を全うできるまちとは何かと考えると、都市整備の観点はテーマとして大きくなると思います。この柱をどのように位置づけていくのかをもう少し議論する必要があると思います。あと、都市整備は市内全般が対象にならざるを得ないのですが、日本や世界各地を見て思うのが、私は駅周辺の整備が景観を含めて今のままでいいのかということも議論しなくていいのかという意識はあります。駅及び駅周辺というのは、ある程度集中してまちの「顔」というかたちで計画的整備しているところが多いわけですね。いいか悪いかは別として、それと対比の中で米沢はどうかというのを議論してもいいのかなと思います。

会長 確かに私が40年前に米沢駅に降り立ったときには駅前に何もなくて、街中はもっと奥にありました。繁華街が川を渡ってからあるのは今でもそうですが、駅周辺はなかなか難しいですね。駅周辺というキーワードは今までなかったですね。ご指摘ありがとうございます。その他、都市整備で50年後に付け足してほしいことがありますか。

委員 都市整備というのは、今始めても長期的なプランを持って10年間取り組んで、その結果として継続すべきことにつながるから、50年後を見据えたものは当初の10年と全然違うものにはならないと思います。例を挙げれば、「景観形成」が10年後で変わることはないのだから、表現は変えたとしても、50年後にも目標としては「米沢らしいまち」をずっと目指していくということにならざるを得ないのではないのかなと思います。10年後を目指した項目のほとんどは継続的に50年後を見据えて目指すものに入るのではないのでしょうか。それにプラスして自然環境なんかも入るのではないかなと思います。

会長 そうですね。突然50年後変わるはずがないので、確かに延長線上にあるということで項目を増やせるかもしれません。他に御発言ありますか。

委員 専門が農家なので、農業の視点になってしまうのですが、都市整備というと農村地帯が薄れがちなイメージですけども、農村の多面的機能ということを農水省も打ち出していまして、農村だからこそ都市に貢献できている面があって、自然災害において、水田が洪水被害を食い止めたり、川の流れを安定させたり、暑さを和らげる効果があったり、花が癒しや安らぎをもたらすなど、農村の多面的

な機能は注目されていますので、農村の役割は上杉の城下町には大事な部分になると思いますので、追加していただきたい視点であります。

会長 都市をどの範囲で捉えるかですね。今後検討していきたいと思います。それでは、これから「安心安全」について委員の皆様から御意見を頂戴したいと思います。

委員 安心安全という項目ですが、米沢のABCは昔から打ち出しているのです、食に関しての安心安全を入れていただきたいと思います。昨今、食品表示等の問題がありますので、安心安全という意味では市全体で食に対して取り組んでいると印象もよく、市民の認識や取り組み方も変わってくるのかなと思うと、やはり「食」の文言をつけていただきたいと思います。確か札幌市で食の安心安全なまちづくりということで条例を作っている例もありました。他には、生産だけじゃなく製造や加工など、食に係るすべての業種において、リスクをどう乗り切るかといった、意識の取り組みの勉強を全体で行っていくと、食に対する方向付けが行えるのではないのでしょうか。

会長 食に対する安心安全がキーワードですね。では次の委員お願いします。

委員 安心安全を考えるとときに、どうしても医・食・住の「住」を考えてしまうのですけれども、今「食」の話が出ましたし、「医」についても大事だと思います。最近ではこれに「エネルギー」が入ってくると思うのですが、あと、加えるとすれば10年後、50年後を考えた時に、「情報」という要素がすごく大きくなる可能性が高いと思います。震災の時もそうでしたが、情報網や情報の質と言った安心安全が非常に重要になると思います。医・食・住・エネルギー・情報の安心安全を考えるといいのかなと思いました。

委員 安心安全の10年後を目指す方向性には、「子育て支援の充実したまち」という表現で載せていただけたらと思います。そのうえで50年後はどうなるかというところ、若者が結婚し子育てをしていくうえで希望が持てるまち、かつ子育てを楽しむまちということを挙げていただきたいと思います。子育て支援の充実により、安心して子育てができるようにし、子育てを楽しんでほしいのです。子育ては苦しいものではなく本来楽しいものなので、苦しさを楽しさに変えられるということで、それをサポートしているのが私たち保育者です。子育て支援の充実したまちであることは子育てを楽しむまちなのだという観点で構成していただきたいと思います。もう一つ提案したいのが、小中高における通学路の整備です。街中では通学路の要望として歩道の除雪が第一優先だと思いますが、郊外は街灯の設置が優先してお願いしたいことなのです。子を持つ母親としてはとても心配です。また、青パトの拡充等の下校時間に合わせた集中的な巡回がなされれば、子どもたちも危険なく帰れるのではないかなと思います。

委員 私は、健康長寿社会のキーワードがあるので、そこを増やしたほうが良いと思います。10年間で取り組む内容ですが、例えば、「食育」というキーワードがあった方がいいと思います。「食育」は子どもからお年寄りまで全ライフスタイルにおける食育の推進や、健康長寿社会を目指すうえで、健康づくりが重要になりますが、住民自らが実践していかなければならないわけですので、「住民自らが健康

づくりを行うまち」とか、そういった健康づくりのための環境整備として、保健・医療・福祉の連携を図るといった言葉があればいいと思いました。それを踏まえて50年後を見据えたものとして、例えば、介護料を減らし健康寿命を延伸するとか、生活習慣病の予防とか、重度化予防といった項目があればいいかなと思いました。

委員 「保安」という項目がいいのではないかなと思います。地域のコミュニティによって皆で子どもたちを守っていくような「保安」項目を追加していただけたらと思いました。先ほど産業振興で話しそびれたのですが、50年後を見据えた項目に観光産業が入っていないので是非入れていただきたいと思います。人口減少する中で経済効果を考えた時に、物産を含めた観光は重要だと思います。今後50年を見ると外国からのお客さんも増えてくる中で、「保安」を地域のコミュニティとして守っていくことは米沢としての安心安全につながっていくのではないかなと思います。

委員 雪対策と防災をどう米沢らしくするかというのがあります。米沢は本当に雪さえなければと言われていますが、そこが逆に米沢らしくて、これから努力する必要もあるし、安心安全に雪が入るっていうのも米沢らしいなと思いましたし、安心安全に入る項目なのかなと思いました。防災に関しては、国を上げて防災に取り組んでおりますし、そういった意味では米沢は災害が少なく恵まれているなと思います。しかし、災害がなくても対策が要求される時代になってきておりますので、しっかりとネットワークを作って、助け合いで安心できるシステムを作るということを、米沢らしく充実させることが安心安全に近づけると 생각합니다。

委員 10年後の主要施策にある健康長寿社会は、10年間だけではなく永久的に続くものですので、50年後を見据えて目指すものとして健康長寿社会があってもいいのではないかなと思います。そのために、医療・介護・福祉の連携や施策があるのだと思います。子育て支援につきましては、基本は若者が結婚して子育てがしやすいまちだということを入れていただければと思います。雪については、エネルギー問題がありましたが、どちらかという雪はマイナスで、放っておけば消えるけれども消すのに莫大なコストが掛かるというものですが、是非50年後を見据えて、地熱や雪という新しいエネルギーを開発する中で雪をいかに地域の中で活用していくのかということテーマとして掲げていただきたいと思います。

委員 「防犯」は大変重要だと思います。10年間取り組むべきところに、例えば公序良俗に反するような組織や建物が出てこないようにみんなで守っていく、見張っていくシステムというのがあってもよいのではないかなと思います。50年後というと、移民などの外国人の方が増えてくることも考えられます。その時に想定外のことが起こるかもしれません。そういったものに対応できる何かがあれば安心安全に対応できるのではないかなと思います。

委員 安心安全という文言もいいのですが、すぐに取り掛からないといけない問題として、「子育て支援」と「結婚のすすめ」が必要だと思います。人材育成のところに家族観、結婚観の醸成とありますけれども、「安心安全」ではなくて、「子育てと結婚、健康維持を応援する安全なまち」と文言を入れて、3本もしくは4本柱

で人口維持を狙うのが米沢市として必要ではないかなと思います。

会 長 項目などは本日の皆様の御意見を踏まえて、事務局でまとめたうえでバージョンアップしてくると思います。

委 員 安心安全という視点で、地域を守るということは、子どもも大人も皆で守っていくことが大切だと思うので、それぞれの地域で、子どもも自分の地域を守っていくシステムに小さい時から参画できるような体制を整えることが大切だと思います。アンケート調査結果を拝見させていただいて、住み続けたいと思う人は他の自治体から比べると低くて、50年後を想定してもこのまま今まで通り大きなまちを作っていくのではなくて、例えば教育は50年後ではなくて今すぐでも取り組むような何かが必要だと思いました。

委 員 「防災」には減災や災害時の初動体制の整備が必要だと思います。南陽市や広島市の豪雨災害がありましたが、各地域で災害協定マニュアルやボランティアやセンターの開設、団体の連携といった意味でマニュアル整備をしているようでした。社会福祉協議会がボランティアセンターを立ち上げて早いところでは、2～3日後にはボランティアが現場に入る体制が整えられており、立ち上げが遅いところでは1週間くらいかかる場面も見られたので、マニュアルの整備が必要だと思いました。風評被害を防ぐためにも「安心安全な情報発信」も大事なかなと思いました。他には、エネルギーの安定供給では、東日本大震災でのガソリン等の燃料問題があり、直接的に被災しなくてもエネルギー不足に悩まされたので、今後20～30年後には新エネルギーにも着目しながら災害時にもエネルギーが安定供給されるよう、具体的な数値目標もしっかりと落とし込みながら考えていかなければならないのかなと思います。

委 員 小中学校の校舎は耐震化によって、安全に安心して過ごせる校舎になっています。子どもたちが学校のみならず、登下校や地区内で放課後や土日に安心して遊ぶことができるような地域づくりが必要ではないのかなと思います。現在各学校校区内において地域の方々が登下校の際に通学路に出て見守っていただいている地域が多くあります。しかし、遊び場に関してはまだまだ地域が出て見守る体制がないので、今後必要だと思います。子どもたちを見守る・育てていく地域づくりを通して地域の方が学校に関わり、地域と共に子どもたちを育てていくという項目があればいいのかなと思います。雪ですが、寒中野菜が広報で取り上げられ、雪と野菜の取り組みを知ることができました。雪があるためにプラス的なものがあるのですが、どちらかという米沢に来られた方は「雪か」とマイナスに感じています。米沢は除雪が上手だと他市町村から聞いたことがありますけれども、やはり排雪せずに積まれた雪を見て「米沢って」と雪を負に思う面もあると感じています。

委 員 皆さんがおっしゃっていた、上の4つのカテゴリーがそれぞれ単一で考えられないのではないかなということには同感です。例えば、コミュニティでは、小さい頃から教育をされていないと、大人になってからコミュニティと言っても虚しいだけで、現に中心部は隣組が機能していないところがたくさん出てきており、それ以外の所はかろうじて機能しているくらいです。コミュニティの最小単位は隣

組ですので、このコミュニティ機能を維持させるにはやはり子供のころからの教育だと思います。そして、その効用は地域で高齢者や子供を見守るという観点だと思います。二つ目ですが、ここ数年で、「おきねっと (OKI-net)」という画期的なシステムが導入されまして、加入している病院の患者の検査データを病院間で共有できるシステムです。つまり、ある病院で撮ったレントゲン写真を別の病院で見られることから二重に検査する必要がなくなります。この「おきねっと」のような情報システムをもっと広げて地域全体で市民の健康をフォローしていかないと医者不足に対応していけないのではないかと考えます。加えて、未病教育、健康教育が必要だと思います。三つ目に、長寿社会、介護医療体制を支える体制がどうなっているか考えますと、雇用の面で気づくことですが、求人があるとは言え、介護関係にはなかなか人が集まらないと言われていました。これは安心安全の10年の計画にぜひ入れていただきたいのですが、雇用の面で長寿を支える体制を早急に充実させていかないといけないと思います。最後に雪問題です。市では地下水を出して雪を解かすことを消雪の取り組みにしていますが、豊富な水資源がなくなり地盤沈下の一因になっているのではないかとされており。山大工学部も昔からその研究に取り組んできましたので、除雪、消雪そしてエネルギー、豊かな土地保全、地下水について山大と共同での雪対策を50年後まで運命共同体で続けていくことが必要かなと思います。

会 長 雪対策は大きな課題としてのしかかるわけですがけれども、昔炭酸ガスレーザーで雪雲を温めると米沢は雨で通過して天元台には雪がどっさり降るという研究もありましたが、雪を降らせない方法も不可能ではないという研究をされてきました。私は40年ここにいますが、地元と違ってこちらは驚くばかりの雪ですがけれども、慣れてしまうと楽しいです。雪灯籠祭りもありますし、住めば都じゃないですが、何か雪を活用できるまちになっていければいいなと思います。何か他にございますか。

委 員 都市整備についてです。若い世代から見放されない中心市街地という表現がよくないと思います。むしろ若い世代が見放さない教育を人材育成ですればよいと思います。東京のマネをしても米沢はダメだとある本に書いてある。米沢らしい若者が自分たちで中心市街地を作るのだと教育をすればいいのであって、見放されないという表現はよくないと思います。

会 長 検討していきましょう。他にありますか。日本創成会議で発表した2040年の消滅可能性都市には米沢市は該当しませんでした。大学の存在が大きいのかなと思います。いまから20年前に工学部が山形市に引っ越す計画があつて、米沢市に落とすお金が50億円ほどあつたと聞いています。やはり米沢でもっと大学関係者を増やし、この度、栄養大学ができて学生が増えましたが、絶えず学生が出入りすれば米沢は人口確保ができ、いろんな意味で企業誘致よりいいのではと思っています。雇用の問題はありますが、大学による産業振興に使うということで、とにかく大学を使っただけでいいなと思います。ただ、残念なのは、山大の先生が隣組にどれだけ参加しているのかということです。大学の先生方も自ら地元で活動することも必要なのかなと思います。では(2)のその他についてご

ございますか。

事務局 資料「他市のアンケート状況調」に基づき説明

- 本日配布しましたアンケート調査は、前回お示しした中高生アンケートと同様のアンケートを行っている他市等と比較ができないかということでお調べしたところです。
- 公表されている内容から、将来の居住意向の部分について調べられた範囲でお示ししています。
- なお、団体において調査方法・設問内容等が同一ベクトルではなく、様々な聞き方をしておりますので、比較が困難であることを御了承願います。
- 中高生アンケートについて他市にない項目として「いずれは帰ってきて暮らしたい」という項目があります。これは他市によっては「ずっと住み続けたい」とあるいは項目自体がないということになりますので、この部分で正確な比較ができないということになりますが、米沢市の場合、ずっと住み続けたい、いずれは帰ってきて暮らしたいという考える割合は合算すると5割程度になり、そのほか市外に出たい割合は2割程度となっております。
- 他市について多少ばらつきはありますが、市外に出たいという割合は概ね同様の傾向があるものと思われまます。
- 市民アンケートにつきまして、調べられる限りで記載しております。
- 将来住み続けたい割合は5割程度、市外へ出たい割合は2割、分からないが3割となっております。他市については、市外へ出たい割合が概ね1割程度、それから将来も住み続けたいと考える割合が7～8割程度となっており、米沢市の居住意向は今回お調べした中では低い結果となっております。
- 米沢市の場合分からないと答えた割合が他市より多いことから、約3割が迷っていると考えられますが、こういった方についていかにして住み続けていただくかの施策も考えていかなければと考えております。

会 長 これに対し何か意見ありますか。

(委員より意見なし)

それでは次回日程をお願いします。

事務局 次回会議の日程を御確認いたします。今回は既に御案内させていただいておりますが、12月2日(火)午後1時30分より伝国の杜2階小会議室にて第5回審議会を開催いたします。なお、会場等変更になる場合は御連絡いたしますのでよろしく願いいたします。それから、前回・今回と2回にわたって総合計画の視点ということで御意見を頂戴したわけですが、次回中間意見書の素案という形にまとめて御提示したいと考えておりますのでよろしく願いいたします。

事務局 補足をさせていただきます。次回の中間意見の「形」については検討させていただきます。書類的な中間意見報告書までには前段ならないかもしれませんが、今回は簡単にまとめさせていただいたものを御提案させていただければと思っております。御提案の中身につきましては、今回いただいた御意見と、これまで皆様から文書で御意見も頂戴しておりますので、そちらも参考にさせていただき、課題は十分承知しておりますが、総合計画でございますので、今後前向きに進んでいく

ための内容として検討させていただきます。そして、来年1月には形にして最終確認を皆様にしていただき、市長に中間意見書を提出していただきます。その中間意見書をいただきまして、市役所全体で総合計画の素案を作成して、4月頃に皆様方に御提示して内容を御検討いただくという形で考えておりますので、今回審議がありましたカテゴリーについても今後検討していきますのでご承知おきいただければと思います。

会 長 他に皆様からありますか。

委 員 先ほどのアンケート結果で気になったのは、確かに米沢ではいずれは帰ってきて暮らしたいという設問が米沢市独特で、これをどう考えるかなんですが、先ほどの説明だと、将来も住み続けたいと合算して解釈されていますが、合算して比較すべきは千歳市だけだと思います。この場合、同じく雪が降る同規模の千歳市と比較し、10ポイント近く残念ながら住み続けたいという意見が低いというべきなのではないでしょうか。逆に言うと、明石市とつくば市の場合は、この設問構造を比較すると、いずれは帰ってきて暮らしたいという項目はできれば市外へ出たいと同じグループに入るのではないかと思います。そう考えると残念ながら、できれば市外へ出ていきたいという率が明石市つくば市と比べると10ポイント程度高い、これは深刻に受け取るべきかと感じました。

会 長 厳しい状況ですね。来年7月まで気合を入れて頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。以上で審議を終了します。長時間に渡りありがとうございました。

事務局 大変ありがとうございました。本日お忙しい中御出席賜りありがとうございました。これもちまして第4回総合計画審議会を閉会いたします。本日は大変ありがとうございました。

(4) 閉会

以上